

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2016年9月4日聖日礼拝

---

エステル記連講(9)

「悲しみが喜びに」

エステル記

9章16節～10章3節

竿代照夫牧師

- 16 王の諸州にいるほかのユダヤ人も団結して、自分たちのいのちを守り、彼らの敵を除いて休みを得た。すなわち、自分たちを憎む者七万五千人を殺したが、獲物には手をかけなかった。
- 17 これは、アダルの月の十三日のことであって、その十四日には彼らは休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。
- 18 しかし、シュシャンにいるユダヤ人は、その十三日にも十四日にも集まり、その十五日に休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

19 それゆえ、城壁のない町々に住むいなかのユダヤ人は、アダルの月の十四日を喜びと祝宴の日、つまり祝日とし、互いにごちそうを贈りかわす日とした。

20 モルデカイは、これらのことを書いて、アハシュエロス王のすべての州の、近い所や、遠い所にいるユダヤ人全部に手紙を送った。

21 それは、ユダヤ人が毎年アダルの月の十四日と十五日を、

22 自分たちの敵を除いて休みを得た日、悲しみが喜びに、喪の日が祝日に変わっ

た月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り、貧しい者に贈り物をする日と定めるためであった。

23 ユダヤ人は、すでに守り始めていたことを、モルデカイが彼らに書き送ったとおりに実行した。

24 なぜなら、アガグ人ハメダタの子で、全ユダヤ人を迫害する者ハマンが、ユダヤ人を滅ぼそうとたくらんで、プル、すなわちくじを投げ、彼らをかき乱し、滅ぼそうとしたが、

25 そのことが、王の耳に入ると、王は書

簡で命じ、ハマーンがユダヤ人に対してたくらんだ悪い計略をハマーンの頭上に返し、彼とその子らを柱にかけたからである。

26 こういうわけで、ユダヤ人はプルの名を取って、これらの日をプリムと呼んだ。こうして、この書簡のすべてのことにより、また、このことについて彼らが見たこと、また彼らに起こったことにより、

27 ユダヤ人は、彼らと、その子孫、および彼らにつく者たちがその文書のとおり、毎年定まった時期に、この両日を守って、これを廃止してはならないと定め、これ

を実行することにした。

28 また、この両日は、代々にわたり、すべての家族、諸州、町々においても記念され、祝われなければならないとし、これらのプリムの日が、ユダヤ人の間で廃止されることがなく、この記念が彼らの子孫の中でとだえてしまわないようにした。

29 アビハイルの娘である王妃エステルと、ユダヤ人モルデカイは、プリムについてのこの第二の書簡を確かなものとするために、いっさいの権威をもって書いた。

- 30 この手紙は、平和と誠実のことばをもって、アハシュエロスの王国の百二十七州にいるすべてのユダヤ人に送られ、
- 31 ユダヤ人モルデカイと王妃エステルがユダヤ人に命じたとおり、また、ユダヤ人が自分たちとその子孫のために断食と哀悼に関して定めたとおり、このプリムの両日を定まった時期に守るようにした。
- 32 エステルの命令は、このプリムのことを規定し、それは書物にしるされた。

- 1 後に、アハシュエロス王は、本土と海の島々に苦役を課した。
- 2 彼の権威と勇気によるすべての功績と、王に重んじられたモルデカイの偉大さについての詳細とは、メディヤとペルシヤの王の年代記の書にしるされているではないか。
- 3 それはユダヤ人モルデカイが、アハシュエロス王の次に位し、ユダヤ人の中でも大いなる者であり、彼の多くの同胞たちに敬愛され、自分の民の幸福を求め、自分の全民族に平和を語ったからである。

# 説教

エステル記連講（ 9 ）

「悲しみが喜びに」

エステル記

9章16節～10章3節

竿代照夫牧師

## 主テキスト

それは、ユダヤ人が毎年アダルの月の十四日と十五日を、自分たちの敵を除いて休みを得た日、悲しみが喜びに、喪の日が祝日に変わった月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り、貧しい者に贈り物をする日と定めるためであった。

( エステル 9:21-22 )

# 1 .(前回の要約)ユダヤ人の自衛行動(9:16-19)

- ユダヤ人を守る措置
- 措置の実行
- エステル記の強調

## 2. 祭日の布告（9:20～22）

- 祭の日と意義：  
12月14日,15日、ユダヤ人救出の記念
- 祭の内容：  
祝宴、御馳走の交換、  
貧しい者への贈り物

### 3. 「プリム」という名前（9:23～28）

- ・ 祭日の実行
- ・ 「プリム」という名前：  
くじ引き（プル）の複数形
- ・ 世々に亘って実行

## 4 .祭日規定の再確認（ 9:29 ~ 32 ）

## 5 .モルデカイの功績（ 10:1 ~ 3 ）

- ・ アハシュエロス王の功罪
- ・ モルデカイの功績

おわりに：

嘆きを喜びに  
変え給う  
主を  
捉えよう